

会津漆の民族楽器完成

会津大短期大学部教授ら 現地の祭りへ展示へ

森林火災被害の豪州を支援



オーストラリアの民族楽器アイジユリドゥに漆を施してきた会津若松市の会津大短期大学部の井波純教授らは楽器を完成させた。七日、森林火災と闘うオーストラリアの人々に心を寄せるため、現地のパースで開かれる日本祭りへ展示する。

福島市の団体子どもの笑顔ザ・ビッグ・キッス・プロジェクトの提案で実施した。県人会の橋渡しにより日本祭りへ井波教授らが作

業を上演する予定だったが、新型コロナウイルスによる肺炎拡大を受け渡航を見合わせ、関係者が持参する。会津漆器の伝統技法



完成したアイジユリドゥを手にする井波教授

により鶴や松竹梅をあらわし、両端をオース

トラリア産の貝による螺鈿(らでん)で飾った。井波教授、デザイナーを考案した漆芸家の吾子可苗非常勤講師、ゼミ生が制作した。

オーストラリアへの思いを寄せ書きしたフラッグも作成した。フラッグは県内外の高校生らも作っており、関係者が計七枚を日本祭りに向け発送した。

井波教授は「世界の人が互いに助け合う気持ちを持てればいい」と話している。



フラッグにオーストラリアへの思いを記した会津大短期大学部の学生ら

豪支援の漆作品完成

アボリジニの楽器 日本的に

伝統技法で「鶴」「松竹梅」

会津大短期大学部

大規模な森林火災が深刻化するオーストラリアの力になりたいと会津大短期大学部(会津若松市)の学生が制作していた漆工芸作品が完成した。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、現地を訪れ直接手渡すことは断念したが、制作を指導した井波純産業情報学科教授(60)は「お互いに助け合って難局に立ち向かうシンボルになれば」と話す。



会津漆器の伝統技法でアレンジされた民族楽器に見入る井波教授

作品制作は、7日にパースで開かれる「パース・ジヤパン・フェスティバル(日本祭り)」に出展する県人会「パースふくしまの会」から国際交流団体「子どもの笑顔ザ・ビッグ・キツス・プロジェクト」を通じて依頼があった。井波教授は「震災支援の恩返し的气持ちを込めた作品を届けたい」と快諾、同学科デザイン情報コースのゼミ生6人と制作を進めた。

オーストラリア大陸の先住民アボリジニの管楽器「アイジュリドゥ」に螺鈿や朱磨き、平極蔦絵など会津漆器の伝統技法で装飾し、両国の歴史と文化が融合した世界で唯一の作品が完成した。元々はユーカリの木の色だが、日本で縁起が良いとされる鶴や松竹梅の図柄を組み合わせた日本的な楽器に生まれ変わった。

日本祭りには井波教授と非常勤講師の吾子可苗さんが持参し、現地で仕上げ作業を実演する予定だった。国内発送して関係者に託すことになり、井波教授は「反応を直接知りたかった」と残念がるが、「楽器が奏でる音色とともに、お互いに助け合う気持ちを持つことができれば」と話している。パースに向けては、同学科の学生や同市の英会話教室に通う子どもたちの寄せ書きも送った。

豪支援の漆作品完成

アボリジニの楽器 日本的に

伝統技法で「鶴」「松竹梅」

会津大短期大学部

大規模な森林火災が深刻化するオーストラリアの力になりたいと会津大短期大学部(会津若松市)の学生が制作していた漆工芸作品が完成した。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、現地を訪れ直接手渡すことは断念したが、制作を指導した井波純産業情報学科教授(60)は「お互いに助け合って難局に立ち向かうシンボルになれば」と話す。

作品制作は、7日にパースで開かれる「パース・ジヤパン・フェスティバル(日本祭り)」に出展する

県人会「パースふくしまの会」から国際交流団体「子どもの笑顔ザ・ビッグ・キツス・プロジェクト」を通じて依頼があった。井波教授は「震災支援の恩返し的气持を込めた作品を届けたい」と快諾、同学科デザイン情報コースのゼミ生6人と制作を進めた。



会津漆器の伝統技法でアレンジされた民族楽器に見入る井波教授

オーストラリア大陸の先住民アボリジニの管楽器「アイジュリドゥ」に螺鈿や朱磨き、平極蔦絵など会津漆器の伝統技法で装飾し、両国の歴史と文化が融合した世界で唯一の作品が完成した。元々はユーカリの木の

色だが、日本で縁起が良いとされる鶴や松竹梅の図柄を組み合わせた日本的な楽器に生まれ変わった。

日本祭りには井波教授と非常勤講師の吾子可苗さんが持参し、現地で仕上げ作業を実演する予定だった。国内発送して関係者に託すことになり、井波教授は「反応を直接知りたかった」と残念がるが、「楽器が奏でる音色とともに、お互いに助け合う気持ちを持つことができれば」と話している。

パースに向けては、同学科の学生や同市の英会話教室に通う子どもたちの寄せ書きも送った。